科学研究費助成事業（基盤研究（Ｓ））研究進捗評価

課題番号	16H06325	研究期間	平成２８(2016)年度 ～令和２(2020)年度
研究課題名	ライフスタイルと脳の働き　－超高齢社会を生き抜くための心理科学－	研究代表者 （所属・職） （平成 31 年 3 月現在）	積山　薫 （京都大学・総合生存学館・教授）

【令和元(2019)年度　研究進捗評価結果】

評価		評価基準
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○	A－	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

（意見等）

本研究は、近年の加齢認知神経科学の成果から示唆される「衰えやすい脳部位」と「衰えを補おうとする脳部位」との存在を視野に入れつつ、ライフスタイルや介入がどのような機序で高齢者の認知機能維持に効果をもつのかを明らかにするものである。

音楽関係や顔認知における軽度認知障害の検出では予想以上の研究成果や新たな研究成果が得られており、各研究項目間にばらつきがありながら、研究は着実に進展していると判断するものの、一部に期待どおりの研究成果がまだ十分には得られていない領域（Diffusion Tensor Imaging など）がある。

一方、一般的認知機能維持の機序の解明という本研究の大きな目的に照らして、研究項目間の関連付けが弱い。「超高齢社会を生き抜くための」統合的機能構造モデルの構築に向け、総合的論考の深化、研究班間の議論により個々の研究成果の有機的結合を図る努力を望む。